

# 四 半 期 報 告 書

(第127期 第2四半期)

自 2019年7月1日

至 2019年9月30日

西 部 瓦 斯 株 式 會 社

E 0 4 5 2 3

# 目 次

	頁
表 紙 .....	1
第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移 .....	2
2 事業の内容 .....	3
第2 事業の状況	
1 事業等のリスク .....	4
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 .....	4
3 経営上の重要な契約等 .....	6
第3 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等 .....	7
(2) 新株予約権等の状況 .....	7
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 .....	7
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移 .....	7
(5) 大株主の状況 .....	8
(6) 議決権の状況 .....	8
2 役員の状況 .....	9
第4 経理の状況 .....	10
1 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	11
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	
四半期連結損益計算書 .....	13
四半期連結包括利益計算書 .....	14
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	15
2 その他 .....	20
第二部 提出会社の保証会社等の情報 .....	21

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年11月13日
【四半期会計期間】	第127期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	西部瓦斯株式会社
【英訳名】	SAIBU GAS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 道 永 幸 典
【本店の所在の場所】	福岡市博多区千代一丁目17番1号
【電話番号】	092-633-2245
【事務連絡者氏名】	経理部 連結決算グループ マネジャー 山 崎 正 良
【最寄りの連絡場所】	東京都港区虎ノ門一丁目15番12号 日本ガス協会ビル2階 西部瓦斯株式会社 東京事務所
【電話番号】	03-3508-1796
【事務連絡者氏名】	理事 東京事務所長 大 塚 潤
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神二丁目14番2号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次		第126期 第2四半期 連結累計期間	第127期 第2四半期 連結累計期間	第126期
会計期間		自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高	(百万円)	86,997	92,848	203,478
経常利益	(百万円)	2,229	1,830	9,760
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益	(百万円)	869	1,075	5,496
四半期包括利益又は 包括利益	(百万円)	1,303	△901	4,369
純資産額	(百万円)	80,810	80,045	82,557
総資産額	(百万円)	354,491	362,665	370,423
1株当たり四半期(当期) 純利益	(円)	23.44	28.99	148.13
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	—	—	—
自己資本比率	(%)	21.4	20.5	20.8
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△547	△592	19,020
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△9,318	△7,892	△22,946
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	8,505	6,615	6,486
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	12,967	15,142	16,888

回次		第126期 第2四半期 連結会計期間	第127期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純損失(△)	(円)	△20.25	△28.83

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
2. 売上高には、消費税等は含まれていない。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。
4. 当社は当第2四半期連結会計期間より業績連動型株式報酬制度「株式給付信託(BBT)」を導入しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間の1株当たり四半期純利益の算定上、「株式給付信託(BBT)」に係る信託口が保有する当社株式を期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めている。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社における異動もない。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はない。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社グループの四半期連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている企業会計の基準に基づき作成されている。経営者の視点による当第2四半期連結累計期間の経営成績、財政状態及びキャッシュ・フローの状況に関する分析等は次のとおりである。

本項に記載した将来に関する事項は、当第2四半期連結会計期間の末日現在において判断したものである。

#### 1. 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高92,848百万円（前年同期比5,851百万円 6.7%増）、営業利益1,796百万円（前年同期比352百万円 16.4%減）、経常利益1,830百万円（前年同期比399百万円 17.9%減）となった。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,075百万円（前年同期比206百万円 23.7%増）となった。

セグメント別の状況は、次のとおりである。

##### (1) ガス

当第2四半期連結累計期間の都市ガス事業におけるお客さま数は113万5千戸であり、都市ガス販売量は前期に比べ1.3%減の412,713千 $\text{m}^3$ となった。このうち、業務用ガス販売量は、前年に比べて気温が低めに推移したことにより空調需要が減少したこと等から4.7%減の277,356千 $\text{m}^3$ となり、家庭用ガス販売量も1.6%減の92,586千 $\text{m}^3$ となった。また、他のガス事業者への卸供給ガス販売量については、卸供給先の需要増等により、29.2%増の42,771千 $\text{m}^3$ となった。

以上のような都市ガス販売量の結果と原料費調整によるガス料金単価の上方調整の影響等により、売上高は58,841百万円（前年同期比2,836百万円 5.1%増）、セグメント利益は771百万円（前年同期比36百万円 4.9%増）となった。

##### (2) LPG・その他エネルギー

電力販売件数の増加等により、売上高は14,476百万円（前年同期比326百万円 2.3%増）となったものの、需要開発費の増加等により、セグメント利益は203百万円（前年同期比416百万円 67.2%減）となった。

##### (3) 不動産

連結子会社が増加したこと等により、売上高は13,690百万円（前年同期比3,136百万円 29.7%増）、セグメント利益は1,002百万円（前年同期比165百万円 14.1%減）となった。

##### (4) その他

その他の事業には、食品販売事業、情報処理事業、飲食店事業等が含まれており、売上高13,143百万円（前年同期比449百万円 3.5%増）、セグメント損失33百万円となった。

(注) 1. セグメント別売上高及びセグメント利益又は損失には、セグメント間の内部取引に係る金額を含んでいる。

2. 本報告書では、ガス量はすべて45MJ(メガジュール)/ $\text{m}^3$ で表記している。

セグメント別の売上高及びその構成比は次のとおりである。

区分	前第2四半期連結累計期間		当第2四半期連結累計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
ガス	56,005	60.0	58,841	58.7
LPG・ その他エネルギー	14,150	15.1	14,476	14.5
不動産	10,554	11.3	13,690	13.7
その他	12,694	13.6	13,143	13.1
計	93,405	100.0	100,152	100.0

## 2. 財政状態の状況

### (1) 資産

当第2四半期連結会計期間末における資産の残高は362,665百万円であり、前連結会計年度末に比べ7,758百万円減少した。

固定資産の残高は286,993百万円であり、前連結会計年度末に比べ2,916百万円減少した。これはガス事業における新規導管投資等があったものの、ガス事業において固定資産の減価償却が進んだことや株価の下落に伴う投資有価証券の減少等があったことによるものである。

流動資産の残高は75,671百万円であり、前連結会計年度末に比べ4,842百万円減少した。これは、不動産事業において販売用不動産の建設工事が進展したことに伴う仕掛品の増加等があったものの、季節的な影響による売掛金の減少等があったことによるものである。

### (2) 負債

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は282,620百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,245百万円減少した。

固定負債の残高は192,039百万円であり、前連結会計年度末に比べ5,469百万円減少した。これは、長期借入金を1年以内に期限到来の固定負債へ振り替えたこと等によるものである。

流動負債の残高は90,581百万円であり、前連結会計年度末に比べ225百万円増加した。これは、ガス事業及び不動産事業において買掛金が減少したものの、短期借入金が増加したこと等によるものである。

### (3) 純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は80,045百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,512百万円減少した。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上はあったものの、株価の下落に伴うその他有価証券評価差額金の減少に加え配当金を支払ったこと等によるものである。

## 3. キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1,746百万円減の15,142百万円となった。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりである。

### (1) 営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間に営業活動により減少した資金は592百万円（前年同期は547百万円の減少）となった。これは、都市ガス事業において原料費調整によるガス料金単価の上方調整の影響等によりガス売上収入が増加したものの、不動産事業において販売物件の建設工事が進展したこと等に伴う支出が発生したこと等によるものである。

### (2) 投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間に投資活動により使用した資金は7,892百万円となり、前年同期に比べ1,426百万円減少した。これは主に、有形固定資産の売却による収入が増加したこと等によるものである。

### (3) 財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間に財務活動により増加した資金は6,615百万円（前年同期は8,505百万円の増加）となった。これは主に、短期借入による調達をしたこと等によるものである。

## 4. 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はない。

## 5. 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はない。

## 6. 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発費の総額は138百万円である。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はない。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。



### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	37,187,567	37,187,567	東京証券取引所 (市場第一部) 福岡証券取引所	単元株式数 100株
計	37,187,567	37,187,567	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### ①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はない。

###### ②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はない。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はない。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日	—	37,187,567	—	20,629	—	5,695

## (5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6-6	2,464	6.64
株式会社福岡銀行	福岡市中央区天神二丁目13-1	1,835	4.95
株式会社西日本シティ銀行	福岡市博多区博多駅前三丁目1-1	1,824	4.92
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1-2	1,748	4.71
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11-3	1,096	2.96
西部瓦斯持株会	福岡市博多区千代一丁目17-1	1,072	2.89
SG共栄会	福岡市博多区千代一丁目17-1	932	2.51
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4-1	848	2.29
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8-11	650	1.75
株式会社親和銀行	長崎県佐世保市島瀬町10-12	636	1.71
計	—	13,111	35.33

(注) 「発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合」における自己株式には、「株式給付信託(BBT)」に係る信託口が保有する当社株式82千株は含まれていない。

## (6) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 80,700	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 37,026,100	370,261	—
単元未満株式	普通株式 80,767	—	—
発行済株式総数	37,187,567	—	—
総株主の議決権	—	370,261	—

- (注) 1. 「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式36株及び当社所有の自己株式37株が含まれている。
2. 「完全議決権株式(その他)」欄には、「株式給付信託(BBT)」に係る信託口が保有する株式82,200株(議決権822個)が含まれている。

②【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
(自己保有株式) 西部瓦斯株式会社	福岡市博多区 千代一丁目17-1	80,600	-	80,600	0.22
計	—	80,600	-	80,600	0.22

- (注) 1. 上記のほか、株主名簿上は当社名義となっているが、実質的に所有していない株式が100株ある。  
 なお、当該株式数は上記①「発行済株式」の「完全議決権株式(自己保有株式)」の中に含まれている。  
 当第2四半期会計期間末日現在の自己名義所有株式数は、80,637株である。
2. 「株式給付信託(BBT)」に係る信託口が保有する株式82,200株については、上記②「自己株式等」に含まれていない。

2【役員の状況】

該当事項はない。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）及び「ガス事業会計規則」（1954年通商産業省令第15号）に基づいて作成している。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けている。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
製造設備	49,485	46,552
供給設備	57,950	56,137
業務設備	17,567	17,481
その他の設備	98,092	97,659
建設仮勘定	16,217	19,026
<b>有形固定資産合計</b>	<b>239,314</b>	<b>236,857</b>
<b>無形固定資産</b>		
のれん	44	64
その他無形固定資産	2,326	2,413
<b>無形固定資産合計</b>	<b>2,371</b>	<b>2,478</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	34,150	32,644
長期貸付金	1,702	2,277
退職給付に係る資産	3,781	4,198
繰延税金資産	2,429	2,541
その他投資	6,979	6,918
貸倒引当金	△731	△742
関係会社投資損失引当金	△88	△178
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>48,223</b>	<b>47,658</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>289,909</b>	<b>286,993</b>
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	18,405	16,190
受取手形及び売掛金	24,337	17,826
有価証券	50	50
商品及び製品	5,614	6,116
仕掛品	14,767	20,346
原材料及び貯蔵品	10,672	7,954
その他流動資産	6,824	7,322
貸倒引当金	△158	△135
<b>流動資産合計</b>	<b>80,513</b>	<b>75,671</b>
<b>資産合計</b>	<b>370,423</b>	<b>362,665</b>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>固定負債</b>		
社債	65,000	65,000
長期借入金	118,970	112,388
繰延税金負債	1,090	620
ガスホルダー修繕引当金	332	354
退職給付に係る負債	1,979	1,991
資産除去債務	361	364
その他固定負債	9,774	11,320
固定負債合計	197,508	192,039
<b>流動負債</b>		
1年以内に期限到来の固定負債	27,397	32,157
支払手形及び買掛金	17,893	7,734
短期借入金	26,530	36,609
未払法人税等	2,671	1,720
役員賞与引当金	32	7
その他流動負債	15,829	12,351
流動負債合計	90,356	90,581
<b>負債合計</b>	<b>287,865</b>	<b>282,620</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	20,629	20,629
資本剰余金	6,070	5,820
利益剰余金	41,930	41,704
自己株式	△191	△371
株主資本合計	68,440	67,782
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	6,930	5,001
為替換算調整勘定	—	△0
退職給付に係る調整累計額	1,617	1,521
その他の包括利益累計額合計	8,548	6,522
非支配株主持分	5,569	5,739
<b>純資産合計</b>	<b>82,557</b>	<b>80,045</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>370,423</b>	<b>362,665</b>

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	※1 86,997	※1 92,848
売上原価	52,426	57,819
売上総利益	34,570	35,028
供給販売費及び一般管理費	※2 32,422	※2 33,232
営業利益	2,148	1,796
営業外収益		
受取利息	2	3
受取配当金	375	438
持分法による投資利益	1	163
雑貸貸料	249	248
雑収入	427	369
営業外収益合計	1,055	1,223
営業外費用		
支払利息	801	714
雑支出	173	474
営業外費用合計	975	1,189
経常利益	2,229	1,830
特別利益		
固定資産売却益	—	572
特別利益合計	—	572
特別損失		
投資有価証券評価損	—	141
貸倒引当金繰入額	261	—
特別損失合計	261	141
税金等調整前四半期純利益	1,967	2,261
法人税等	960	1,128
四半期純利益	1,007	1,133
非支配株主に帰属する四半期純利益	137	58
親会社株主に帰属する四半期純利益	869	1,075

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	1,007	1,133
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	251	△1,937
為替換算調整勘定	—	△8
退職給付に係る調整額	28	△95
持分法適用会社に対する持分相当額	16	6
その他の包括利益合計	296	△2,035
四半期包括利益	1,303	△901
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,166	△950
非支配株主に係る四半期包括利益	137	49



## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,967	2,261
減価償却費	9,447	9,529
長期前払費用の償却及び除却	469	445
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	280	78
受取利息及び受取配当金	△377	△442
支払利息	801	714
有形固定資産売却損益 (△は益)	—	△572
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	141
売上債権の増減額 (△は増加)	3,111	6,510
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△4,589	△3,355
仕入債務の増減額 (△は減少)	△8,791	△10,150
未払消費税等の増減額 (△は減少)	207	37
その他	△456	△3,659
小計	2,071	1,540
利息及び配当金の受取額	425	495
利息の支払額	△816	△722
法人税等の支払額	△2,227	△1,905
営業活動によるキャッシュ・フロー	△547	△592
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△8,150	△8,241
有形及び無形固定資産の売却による収入	23	1,898
長期前払費用の取得による支出	△508	△362
投資有価証券の取得による支出	△549	△1,115
投資有価証券の売却による収入	13	13
貸付けによる支出	△118	△706
貸付金の回収による収入	9	172
その他	△37	450
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,318	△7,892
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	17,375	10,068
長期借入れによる収入	8,371	14,216
長期借入金の返済による支出	△15,408	△15,665
社債の償還による支出	△104	△80
自己株式の純増減額 (△は増加)	△1	△180
非支配株主からの払込みによる収入	—	329
配当金の支払額	△1,298	△1,297
非支配株主への配当金の支払額	△202	△126
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△375
その他	△227	△273
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,505	6,615
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	3
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,360	△1,865
現金及び現金同等物の期首残高	14,327	16,888
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	119
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 12,967	※1 15,142

**【注記事項】**

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算している。

(追加情報)

(業績連動型株式報酬制度の導入)

当社は、2019年6月26日開催の第126回定時株主総会決議に基づき、当社の取締役(監査等委員である取締役を除く。)に対する業績連動型株式報酬制度「株式給付信託(BBT)」を導入している。

(1) 取引の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が「株式給付信託(BBT)」に係る信託口(以下、「信託口」という。)を通じて取得され、取締役に対し、当社が定める役員株式給付規程に従い、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭(以下、「当社株式等」という。)が信託口を通じて給付される株式報酬制度である。なお、取締役が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として取締役の退任時となる。

(2) 信託口に残存する自社の株式

信託口に残存する当社株式を、信託口における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により純資産の部に自己株式として計上している。当第2四半期連結会計期間末における当該自己株式の帳簿価額は179百万円、株式数は82千株である。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はない。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 著しい季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

当社グループの売上高は、ガス事業のウエイトが高いため、冬期を中心とした期間に多く計上されるという季節的変動がある。

※2 供給販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりである。

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
役員賞与引当金繰入額	6百万円	7百万円
退職給付費用	290	81
ガスホルダー修繕引当金繰入額	17	18
貸倒引当金繰入額	34	0

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりである。

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
現金及び預金勘定	14,309百万円	16,190百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△1,391	△1,097
有価証券に含まれる譲渡性預金	50	50
現金及び現金同等物	12,967	15,142

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,298	35.00	2018年3月31日	2018年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年10月29日 取締役会	普通株式	1,298	35.00	2018年9月30日	2018年12月3日	利益剰余金

II 当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,298	35.00	2019年3月31日	2019年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年10月29日 取締役会	普通株式	1,298	35.00	2019年9月30日	2019年12月2日	利益剰余金

(注) 普通株式に係る配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」に係る信託口が保有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれている。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ガス	LPG・ その他 エネルギー	不動産	計				
売上高								
外部顧客への売上高	55,238	12,935	8,288	76,462	10,534	86,997	—	86,997
セグメント間の内部 売上高又は振替高	767	1,214	2,265	4,248	2,159	6,407	△6,407	—
計	56,005	14,150	10,554	80,710	12,694	93,405	△6,407	86,997
セグメント利益又は損失(△)	735	619	1,167	2,522	△23	2,498	△350	2,148

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品販売事業、情報処理事業、飲食店事業等を含んでいる。

2. セグメント利益又は損失の調整額△350百万円には、セグメント間取引消去又は振替高133百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△484百万円が含まれている。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産にかかる重要な減損損失)

該当事項はない。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はない。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はない。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ガス	LPG・ その他 エネルギー	不動産	計				
売上高								
外部顧客への売上高	57,678	12,989	11,372	82,039	10,808	92,848	—	92,848
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,163	1,487	2,318	4,969	2,334	7,304	△7,304	—
計	58,841	14,476	13,690	87,009	13,143	100,152	△7,304	92,848
セグメント利益又は損失（△）	771	203	1,002	1,976	△33	1,943	△147	1,796

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品販売事業、情報処理事業、飲食店事業等を含んでいる。

2. セグメント利益又は損失の調整額△147百万円には、セグメント間取引消去又は振替高349百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△497百万円が含まれている。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産にかかる重要な減損損失)

該当事項はない。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はない。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はない。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第2 四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2 四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1 株当たり四半期純利益	23円44銭	28円99銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	869	1,075
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益 (百万円)	869	1,075
普通株式の期中平均株式数 (千株)	37,108	37,088

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2. 当社は当第2 四半期連結会計期間より「株式給付信託 (BBT)」を導入しており、当第2 四半期連結累計期間の1株当たり四半期純利益の算定上、「株式給付信託 (BBT)」に係る信託口が保有する当社株式 (当第2 四半期連結累計期間18千株) を期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めている。

(重要な後発事象)

該当事項はない。

## 2 【その他】

2019年10月29日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議した。

1. 配当金の総額 1,298百万円
2. 1株当たりの金額 35.00円
3. 支払請求の効力発生日及び支払開始日 2019年12月2日

(注) 2019年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行う。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月12日

西部瓦斯株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 増村正之 ⑨

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 寺田篤芳 ⑨

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 濱村正治 ⑨

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている西部瓦斯株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、西部瓦斯株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていない。